

キャラクター名
桐鳥 セン

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ ハヌマーン		ワークス	UGNチルドレンC	カヴァー	高校生
	オプショナル		年齢	16	性別	男
覚醒	死	衝動	憎悪	初期侵食率	36	%
出自	義理の両親	経験	汚れ仕事	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	3	0	0			3	行動値	10
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	10
精神	2	1	3			6	戦闘移動	15
社会	1	0	0			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	3		交渉		
回避	1		知覚			意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
全部乗せ(100↑)	RC	13r+3		16		クリティカル値3(タイタス1つ消費で2に)
全部載せ(160↑)	RC	17r+3		18		
通常(100↓)	RC	6r+3		14		侵食率6
通常(100↑)	RC	7r+3		10		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: UGN幹部	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
Dロイス 賢者の石P		N		
御伽刃カンナ	P 尊敬	N 恐怖		
ローザ・パスカヴィル	P 尊敬	N 隔意		
本当の父親	P 遺志	N 悔悟		
	P 幸福感	N 偏愛		
	P 感服	N 脅威		
	P 好奇心	N 脅威		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
CR	2	2						
効果:								
雷の加護	5	2	マイナー					
効果:	ダイス+LV							
雷の槍	5	2	メジャー					
効果:	攻撃力Lv×2+4の射撃攻撃、ダイス-1							
紫電一閃	1	6	メジャー				リミット	
効果:	CR値-1 下限値6							
フルインストール	2	5	イニシアチブ				100↑	
効果:	ラウンド中、ダイスLV×3							
リミットリリース	1	6	オート				100↑	
効果:	C値-1 下限値5							
真偽感知	★	2	メジャー					
効果:	声色から嘘をついてるかどうかわかる							
アンテナモジュール	★		常時					
効果:	体内の電波によりどこでも通信が可能							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

飄々とした語り口調をするが、仲間想いでありUGNが自身に残った最後の居場所だと思っている。覚醒時からFHへの憎悪が強く、12の頃から2年間カンナの元でUGNチルドレンとして生活してきた。14の頃に襲撃事件があり、カンナが自身を庇って重体になったことにただならぬ強い責任を感じている(UGN側の一部の意見として、自身に適合した賢者の石を奪われないようにしようとかンナが手柄立てようとしたという声があるため)

能力としては自身の周囲に雷でできた鳥を飛ばせ、対象に攻撃する。飛ばした雷鳥は音や振動のセンサーの役割を果たすため索敵や陽動、視察にも向いている。声色で嘘を言っているかもわかるため、監視や尋問など出来ることは幅広い。反面、戦闘力としてはまだまだ賢者の石の力頼りなところがあり発展段階。自由な鳥に憧れがある。

【PC①: 御伽刃カンナが育てたUGNチルドレン】

- ワークス/カヴァー: UGNチルドレン / 指定なし
- ロイス: 御伽刃カンナ
- 推奨感情: P尊敬 / N恐怖

UGN垂備須支部の設立から数日後のこと——。いつものように御伽刃カンナの見舞いに訪れた君は、そこに御伽刃の姿がないことに気がつく。どこを探しても見当たらず途方に暮れる中、UGN垂備須支部に新たな任務が下される。それは【STAND ALONE】という新たなFH組織の破壊活動からこの街を守ることだった。